



# ポポフ ニュース

No. 21 2014年8月号

ポポフ (POPOF) はポレポレ基金 (Pole Pole Foundation) の略称で、1992年にコンゴ民主共和国で設立されたNGO (非政府・非営利団体) です。ポレポレとは「ぼちぼち」という意味のスワヒリ語で、あせらずゆっくりと運動の輪を広げていこうという気持ちがこめられています。

ポポフの目的は、コンゴ東部にあるカフジ・ビエガ国立公園の周辺で自然環境の保全、絶滅の危機に瀕するヒガシローランドゴリラの保護、地域振興、自然保護教育を実践することにあります。◀

会員はほとんど国立公園周辺に居住する地元の人々で、調査団を組織して土壌や動植物相の現状を調査したり、自然資源の持続的な利用をはかるように村人たちに呼びかけています。子供たちの年齢に合わせて環境教育のプログラムをつくり、就学前の児童から、大学生、主婦にいたるまでさまざまな教育事業を実施しています。また、国際交流を高めるために観光客に配布するパンフレットや絵はがきをつくり民芸品を販売して、地元でエコツーリズムを推進するための活動をしています。▶



ポポフ本部のメンバーとともに

こういったポポフの活動を支援するために、日本支部ではカフジ・ビエガ国立公園周辺の人々の生活、アート、ヒガシローランドゴリラを題材にした絵はがき、カレンダー、エコバッグを作成して販売し、展示会、講演会を開いて寄付を募り、現地で保護・教育活動や必要な物品を購入する資金にあてています。また、民芸品を作成する技術やアイデア、自然保護教育のための教材を提供したりしています。現地コンゴの政治情勢が思わしくないため日本ではまだポポフの会員を募集するまでに至っていませんが、将来日本からも人材を派

遣してより国際的な活動ができるようにしていきたいと思っています。

ポポフニュースは、最近のポポフの活動を紹介し、今までに日本で集められた資金がどのような活動に使われたかを報告するニュースレターです。現地の人々やゴリラの近況についても報告していこうと思います。また、ポポフが創作したポポフ・グッズや絵はがきの販売についても紹介しますので、お知り合いに興味のある方にもぜひ伝えていただきたいと思います。

**お詫び：** ポポフ日本支部の山極寿一が京都大学の総長候補に選出され、その騒ぎでポポフニュースの発行が遅れました。ご心配された方もいらっしゃると思います。今後もポポフ日本支部はこれまで通り運営していきますので、よろしく願いいたします。

(2013年5月から2014年6月まで)

2013年

- 5月26日  
上野動物園ゴリラフェスタ 2013「マウンテンゴリラとローランドゴリラ」  
山極寿一 上野動物園ホール (東京都)
- 6月1日  
いしいしんじ 3本の時間「わたしの中のゴリラ、ゴリラの中のわたし」  
いしいしんじ・山極寿一 京都大学 (京都市)
- 6月11日  
野生生物保全論研究会総会セミナー  
「エコツアーによる地域振興と野生生物保全—アフリカから日本を考える」  
山極寿一 地球環境パートナーシッププラザ (GEOC) 国連大学 (東京都)
- 6月18日～23日  
ゴリラとエコリズム展  
ポポフ主催 堺町画廊 (京都市)
- 6月23日  
ポポフ報告会「ゴリラとエコリズムを考える」  
戸田恵美・バサボセ・カニユニ・山極寿一 堺町画廊 (京都市)
- 7月20日  
亀岡生涯学習市民大学第2講座「家族の由来—ゴリラの社会から考える」  
山極寿一 ガレリア亀岡 (亀岡市)
- 7月21日  
京都府教育委員会シンポジウム  
「未来を担う子供たちのために～京都から広がる学びのネットワーク～」  
「人間にとって学びとは何か」  
山極寿一 京都大学百周年記念時計台ホール (京都市)
- 10月1日  
朝日新聞地球環境フォーラム 2013「野生動物と人間の明日を探る」  
須藤明子・あべ弘士・山極寿一 帝国ホテル東京 (東京)
- 10月4日  
京都大学東京フォーラム「野生のゴリラに挑む—京都大学のフィールドワーク」  
山極寿一 ホテルニューオータニ (東京)
- 11月6日  
環境省フォーラム愛すべき森の隣人たち  
～アフリカ大型類人猿との共存への挑戦「ゴリラの森で学んだこと」  
山極寿一 京都大学東京オフィス (東京)
- 12月15日  
屋久島学ソサエティ創立総会記念シンポジウム基調講演  
「学びの場としての屋久島—サルとヒトと歩いた40年」  
山極寿一 屋久島町宮之浦総合庁舎 (屋久島町)

2014年

- 2月9日  
日本学術会議シンポジウム「野生動物の保全と共存へ向けて」  
三浦慎吾・吉川泰弘・長谷川真理子・長谷川寿一・松沢哲郎・山極寿一 日本学術会議 (東京)
- 2月16日  
ひと・健康・未来シンポジウム 2014 東京「ゴリラから見た人間の少子化と子育て」  
山極寿一 ミキホール (東京)
- 3月15日  
道祖神カルチャー講座「ゴリラの現状と未来—エコリズムの取り組み」  
山極寿一 道祖神 (東京)
- 6月10日～22日  
ポポフ展「ゴリラと環境教育」 堺町画廊 (京都市)
- 6月10日  
京都府医師婦人会ゴリラ楽  
茂山千三郎・坂本英房・山極寿一 ホテルオークラ (京都市)
- 6月12日  
「ゴリラは音楽だ！」  
いしいしんじ・山極寿一 堺町画廊 (京都市)

会計報告

収 入		支 出	
昨年度よりの繰越金	2,611,573	ニュースレター印刷費	25,500
講演会・シンポジウム カンパ	126,021	ニュースレター・ホームページ作成費	11,100
展覧会売上	77,345	ポポフグッズ材料費	57,162
作品売上寄付	171,200	郵送費	48,149
ポポフグッズ売上 (現金)	229,968	ポポフへ送金	4,040,128
寄付 (現金)	2,328,292	次年度へ繰越金	3,782,592
売上・寄付 (郵便振替)	2,419,731		
受取利子	501		
計	7,964,631	計	7,964,631

ろうきん東海 NPO 団体等寄付システム、日本グレイトエイプス保護基金、A SEED JAPAN、「ケータイゴリラ」、エネオスクリック募金から、寄付金をいただいています。



## ポポフが低地へ活動域を広げました

ジョン・カヘークワ

カフジ・ビエガ国立公園は低地部（標高 600~1200 m）と高地部（標高 1800 ~ 3300 m）に分かれ、それを幅数 km のコリドー（回廊）がつないでいます。低地部は全体の面積（6000m<sup>2</sup>）の 9 割を占め、大小の山が入り組み、その間を無数の川が流れています。この地域は 1980 年代から 1990 年代の初頭にかけて調査が行われ、約 8000 頭のゴリラが生息すると推定されていますが、その後起こった内戦のために、ゴリラの様子はほとんど分かっていません。この地域は携帯電話やパソコンなどに使われるレアメタル（希少金属）のコルタンが埋蔵されており、内戦中は多くの人々が公園内に入って採掘をしていたと報告されています。こういった人々がわなを仕掛け、当座の食料として野生動物を捕らえます。おまけに民兵たちが銃を携えて森林内を彷徨し、野生動物を狩りたてます。多くのゴリラがこういった不法活動の犠牲になったと考えられるのです。今ではおそらく、半分の 4,000 頭にも満たない数のゴリラしか、生き残っていないのではないかと懸念されています。早急に地元の人々と話し合い、ゴリラの保護に関心を持ってもらうよう働きかけなければいけません。

ポポフは昨年 10 月に低地部の入り口にあたるイ

でも、村人たちは 1980 年に国立公園が設立されて以来、公園当局と敵対的な関係を続けてきました。保護区になった熱帯雨林はそれまで村人たちが狩猟や採集活動をする場所だったからです。保護区に自由に入れなくなり、野生動物や薬草などが手に入らなくなって、自分たちは大きな犠牲を払



養魚池でテラピアを収穫

わされたというのです。ポポフは村人たちとの話し合いで、高地部のポポフの活動を紹介し、いっしょに養殖池を作ること提案しました。野生動物を捕らえないために、代替の動物タンパク源として増殖率の高いテラピアを養殖しようというわけです。多くの村人がこの養殖池作成に協力し、今までに 40 平方メートルの養殖池を 6 つ作りしました。2014 年中に 18 の養殖池を作る予定です。幼魚のテラピアは放してから収穫するまで 6 カ月かかり、今年の 4 月にやっと収穫ができました。支所の活動は順調にスタートしています。▼



収穫した魚をみんなで料理して食べる



低地のイテベロで村人たちと話し合う

テベロという村に支所を設立し、これまでに 7 回にわたって村人たちと話し合いの機会を持ってきました。まずゴリラの保護の必要性について村人たちに理解を求め、野生動物を根絶やしにしないための生産活動をみんなで力を合わせて始めようと呼びかけたのです。

ポポフの本部がある高地のミティから、低地のイテベロまで 200km の道は泥道で、雨季になると大変ぬかるみます。現在、中古の車を借りて行き来していますが、早くても 2 日かかります。近い将来、4 輪駆動の力の強い車が入手できることを願っています。



低地につながる悪路は車では行けず、自転車を使う



低地へ通じる悪路

## ポポフの環境教育学級

山極寿一

昨年の 12 月に、ポポフ本部を訪問しました。ポポフの活動、とくに環境教育と、ゴリラたちの現況を視察するためです。

ポポフは現在、カフジ・ビエガ国立公園から約 40 キロメートル離れた都市ブカブにオフィスを構え、12 人のスタッフでさまざまな活動を展開しています。ブカブに 3 つある大学との連携を図って、自然科学や自然保護の授業を請け負ったり、ゴリラの保護や環境教育に関するキャンペーンを企画したり、各種 NGO と連絡を取り合って研究会を主宰したり参加することも主な活動のひとつです。その中で最も力を入れているのは、アンガ学校の経営と教育です。アンガ学校はカフジ・ビエガ国立公園のお膝元のミティという村にあり、小学校と就学前の児童クラス、中学校に分かれています。今では毎日 1000 人近い生徒たちであふれかえっています。

訪問すると、まず小学校の生徒たちが「歓迎」の垂れ幕で迎えてくれ、土地のしきたりにしたがって合唱で日本のポポフ支部の支援に感謝を伝えてくれました。続いて、ポポフ代表のジョン・カヘークワのあいさつがあり、小学校の各学年の生徒がひとり、ふたりと出てきて、詩を朗読したり、歌を歌ってくれました。最初はフランス語だったのですが、私が土地で毎日話しているスワヒリ語でお願いし

たいと言うと、みな戸惑ったように、でもうれしそうにスワヒリ語で話しはじめました。ここでは、子どもたちは小さい頃から自分の出身民族の言葉である、マシ語、ハブ語、テンボ語、レガ語などを話すと同時に、東アフリカの共通語であるスワヒリ語を話します。学校ではそれに加えてフランス語を教えており、公式の席ではなるべくフランス語を話すように教えられています。でも私は、できるだけ日常的に話されている言葉で会話したいと思ったのです。実はフランス語が苦手ということもあったのですが。

それから学校の先生方が輪になって踊りだし、その輪の中に私を招き入れ、私もジョンもポポフの現地メンバーもいっしょになって合唱しながら踊りました。とても楽しい体験でした。

続いて、小学校から 1 キロメートルほど離れたところにある中学校を訪問しました。ここでは大学に進学する資格を得ようと多くの生徒たちが学んでいます。生徒たちと話をしてみると、農業技術者になりたいと言う生徒が最も多く、続いて学校の先生、それからお医者さんでした。村の発展や人々のためにつくしたい、という気持ちが強くうかがえます。国際的に活躍したい生徒たちもいるのですが、どうやって活躍

するのか、まだその姿が思い描けていない状況にあるようです。インターネットやテレビで毎日世界の様子を目にしている日本の子どもたちと違って、この子どもたちに



アンガ環境教育学級の生徒たち

はラジオしかないのです。これでは自分の国や世界で起こっていることを十分に知る事ができません。

私はここでもスワヒリ語であいさつし、ポポフ日本支部がどんなにこの生徒たちの活躍を願っているかについて熱く語りました。世界にはいろんな職業があって、君たちの知らない未来が開けている。ぜひ一生懸命勉強して、自分の可能性を試してもらいたい。そして、そのための一助として図書館を建てることを生徒たちに約束しました。日本にはたくさんの本があふれています。英語やフランス語の本も多く、あまり読まれないまま積まれたり捨てられる本が多いです。これらの本をアンガ学校に持って来て、みんなで利用

できたらどんなにいいのに、と強く思いました。子どもたちが本を読み始めたら、おとなたちも関心を持ち、集まってくるかもしれません。環境教育とはまず、正しい知識をみんなで共有するところから始まります。

現在、図書館の建設に向けてポポフはその見取り図を描いたり、費用を計算したりしているところです。皆さんの協力をぜひお願いいたします。



## カフジが京都大学のリーディング大学院の教育研究拠点に

めとして世界の野生動物のフィールド研究に大きな成果を挙げってきました。今度はそれを生かして、保全という実践面で活躍できる人材を育てようという試みなのです。

バサボセさんはカフジ・ビエガ国立公園のチンパンジーの研究によって、京都大学で博士の学位を取得し、その後はIGCP（国際ゴリラ保全プログラム）のエコロジストとしてウガンダ、ルワンダ、コンゴ民主共和国にまたがってヒガシゴリラの保全活動を展開してきました。この大学院プログラムの指導者として、また大学院生たちが目指す将来のモデルとしてふさわしい人です。そこで、キックオフシンポジウムに招いて、その体験や将来の展望を語ってもらい、この大学院プログラムの連携研究者となってもらうことにしたのです。シンポジウムではヒガシゴリラの保護の現状とその政策、地元の人々の参加や意識について詳しく語り、世界の各地から招へいされた研究者や保全活動に従事している人々、京都大学の学生たちと熱心に討論している姿が印象的でした。

昨年バサボセさんはIGCPを退職し、コンゴ民主共和国のCRSN（中央科学研究所）にもどって霊長類学部門の主任として活動しています。リーディング大学院はこのCRSNとその研究フィールドであるカフジ・ビエガ国立公園を連携研究拠点としました。バサボセさんは帰国してから、アフリカ霊長類学コミュニティの設立を呼び掛け、その期待にこたえようとしています。近い将来、学生や研究者たちがたくさん集い、多くの研究がなされてゴリラをはじめとする野生動物の保全活動が盛んになってほしいと思っています。

今年の3月に、ポポフのバサボセ・カニューニさんが来日しました。京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院のキックオフシンポジウムに参加するためです。

この大学院は昨年10月から開始された、オンリーワン型のリーディング大学院プログラムです。研究者になるための学位プログラムではなく、社会で実践的な職業について活躍する人材を養成するために作られました。絶滅の危機に瀕する中・大型の野生動物を研究対象にして、将来国際的に活躍できる職業に就いてもらうことを目指しています。期待される職業としては国連などの国際機関、動物園、水族館、博物館のキュレーター、野生動物の生息地でその保全に関わる機関、が考えられています。今まで、京都大学は霊長類をはじ

## ゴリラたちの近況

カフジ・ビエガ国立公園の高地部では、1970年代から複数のゴリラの集団が人に馴らされ、ゴリラを観察するツアーが実施されてきました。しかし、近年の暴動や内戦によって観光客の足が途絶え、監視員の活動が低下したおかげで、多くのゴリラが密猟の犠牲になりました。21世紀になるまでにゴリラの数は半減し、高地部に生息するゴリラの数は130頭になりました。その後はポポフの地道な活動によって村人たちの理解と協力が得られ、保護活動が推進されてゴリラの数は170頭まで回復しました。以前ツーリストの人気者だったシルバーバックのムシャムカ、マエシェ、ニンジャ、ムバララが1990年代に相ついで亡くなった後、その息子のチマヌーカやムガルカがシルバーバックに成長し、集団を作るようになりました。

ただ、気になるのは21世紀になってからシルバーバックの自然死が相次いでいることです。ミシェベレ、ピリンドワ、ムファンザーラ、ランガというシルバーバックが亡くなっており、そのたびに集団が分裂したり、メスが散り散りに他の集団へ移籍したりして、混乱が続いています。病理解剖をした結果、肝臓や肺に疾患があったことがわかっており、伝染病の疑いはないということではっきりしているところです。もしエボラなど致死性の伝染病が流行ればこの地域のゴリラは全滅しかねないからです。

そこでポポフは、公園当局と協力して多くのゴリラ集団をモニターし、観光客が訪問できる集団を増やすことにしました。現在、人に馴れているのはチマヌーカ集団と単独で暮しているムガルカだけです。チマヌーカにもしものことがあると、メスや子どもたちは散り散りになってしまい、観光客に見せるゴリラたちがいなくなってしまいます。平和になって、これから急速に観光客の数は増えることが予想されます。ポポフが実施しているシルバーバック・キン



すっかり大きくなった双子のゴリラたち

グダムというゴリラツアーにも多くの人々が参加するでしょう。ゴリラを観察できる観光客の数は1集団あたり8人と決められていますから、人に馴れた集団の数を増やさなければ、観光客を受け入れることができなくなります。そのため、長年ゴリラを人間に馴らして観光ガイドをしてきたポポフの代表者ジョン・カヘークワが中心になって、数人のトラックと一しょに森に泊り込みながらムングウェというゴリラの集団を馴らす試みを始めました。

昨年の末から公園内の森にテントを張り、1ヶ月に2週間ほど毎日ムングウェ集団を追っています。新鮮な足跡をつけて、姿が見えたらそうと近づき、なるべくゴリラのしぐさをまねてこちらが敵意のないことを知らせます。少しずつ、ゴリラたちは人間をこわがらなくなってきています。とくに最近この集団に加入したメスたちが私たちに寛容なのです。ムングウェ集団は昨年まで、シルバーバックのオス1頭と子どものいないメス6頭から成る7頭でした。今年の1月までにメスがどこからか3頭加入し、1頭の赤ん坊が生まれ、3月にはさらに2頭のメスがチマヌーカ集団からやってきました。チマヌーカ

集団はすでに人によく馴れているので、やってきた2頭のメスも人を怖がりません。そのメスたちとトラックたち人間とのやりとりを見ているうちに、シルバーバックのムングウェもだんだん人を怖れなくなりました。今では近づいてきたトラックたちに一度は突進して威嚇するものの、7メートルほどの距離を置いて立ち止り、じっとトラックを見ていることがよくあります。この調子でいけば、来年には観光客が訪問できるようになるとみんな楽しみにしています。



頼れるお父さんゴリラのチマヌーカ

集団名	シルバーバック	ブラックバック	オトナメス	ワカモノ	コドモ	アカンボウ	合計
	13歳以上	8-12歳	8歳以上	6-8歳	3-6歳	0-3歳	
ムガルカ	1						1
チマヌーカ	1		15	2	6	7	31
ピリンドゥフ	1		3		3	1	8
ムファンザラ		1	8	3	2	2	16
ランガ	1		5		1		7
ムブングウェ	1		11			1	13
ガニヤムルメ	1		8		2	3	14
マンコト	1		12	1		2	16
無名	1	1	10			3	15
合計	8	2	72	6	13	22	121

### 催しのご案内

- サガシンプジウム(SAGA: Support for Asian and African Great Apes) 2014年11月15日、16日 日立市かみね動物園(日立市)
- ゴリラ来日60周年 2015年1月24日、25日 東京大学弥生講堂(東京)

### 近刊案内

- 久世濃子『オランウータンってどんな「ヒト」?』あさぐみ選書
- 山極寿一『「サル化」する人間社会』集英社
- 古市剛史『あなたはボノボ、それともチンパンジー?』朝日新聞出版
- 横山俊夫編著『達老時代へ―“老いの達人”へのいざない』ウェッジ選書
- 關野伸之『だれのための海洋保護区か』  
―西アフリカの水産資源保護の現場から』新泉社
- 日本アフリカ学会編『アフリカ学事典』昭和堂
- 松田素二編『アフリカ社会を学ぶ人のために』世界思想社
- 落合雅彦編著『アフリカ・ドラッグ考』晃洋書房
- 倉本聡・林原博光『愚者が訊く』双葉社
- ビートたけし『たけしのグレートジャーニー』新潮社
- 武内和彦・渡辺綱男『日本の自然環境政策』  
―自然共生社会をつくる』東京大学出版会
- 井上英治・中川尚史・南正人『野生動物の行動観察』  
―実践 日本の哺乳類学』東京大学出版会
- 多田満『センス・オブ・ワンダーへのまなざし』  
―レイチェル・カーソンの感性』東京大学出版会
- 山口未花子『ヘラジカの贈り物』  
―北方狩猟民カスカと動物の自然誌』春風社
- 池谷和信『人間にとってスイカとは何か』  
―カラハリ狩猟民と考える』臨川書店
- 三石善吉『武器なき闘い「アラブの春」』阿吽社
- 中村安希『リオとタケル』集英社
- 青木淳一『博物学の時間―大自然に学ぶサイエンス』東京大学出版会
- 森枝卓土編『料理すること―その変容と社会性』ドメス出版
- 五百部裕・小田亮『心と行動の進化を探る―人間行動進化学入門』朝倉書店
- Kleiman DG, Rhompson KV, Baer CK, Wild Mammals in Captivity: Principles and techniques for zoo management.  
The University of Chicago Press. 村田浩一・楠田哲士監訳『動物園動物管理学』文永堂出版
- Yamagiwa J, Karczmarski L (ed) Primates and Cetaceans: Field research and conservation of complex mammalian societies. Springer



阿部知暁 画

### ポポフ・グッズ通信販売のお知らせ

ポポフ日本支部では、ポポフのメンバーが作成したポポフ・グッズを販売して、その売り上げを現地の活動資金に寄付しています。ご協力いただける方は、郵便局で「青色」の振り込み用紙に

口座番号：00810-1-90217、  
加入者名：ポレポレ基金、

と記入した上で、ご希望の品名を書き込み、該当する金額をお振り込み下さい。折り返し、グッズをお送りいたします。

☆ポポフ絵はがきセット (おまかせ10枚組)  
1000円

☆ピチブ・ムフンブーカ絵はがきセット (おまかせ5枚組)  
600円

☆どこでもゴリラ・ブローチ (木彫り)  
3000円

☆ケイタイ・ストラップ (白と黒)  
2000円

☆ポポフエコバッグ  
【ア】～【カ】の図柄をご指定ください  
1500円

★ポポフ2015年カレンダー  
(予約販売11月頃配布)  
1000円

この他にも図柄が選べるバラ売りの絵はがきや、ポポフを応援するアーティストによるイラストのエコバッグがたくさんあります。また、ここに掲載できなかったグッズも用意しています。10ページでお知らせしている「ポポフのホームページ」にあるグッズのページも是非ご覧ください。



ポポフ絵はがきセット (おまかせ10枚組)

ピチブ・ムフンブーカ絵はがきセット (おまかせ5枚組)



ケイタイ  
ストラップ (白)



どこでもゴリラ  
ブローチ



ケイタイ  
ストラップ (黒)



エコバッグ  
【ア】

エコバッグ  
【イ】

エコバッグ  
【ウ】



エコバッグ  
【エ】



エコバッグ  
【オ】



エコバッグ  
【カ】



ポポフ2015年カレンダー

写真は'13年の見本

### 絵本『ゴリラとあかいぼうし』の読み方と歌のCD販売について



ダビッド・ビシームワさんの絵による絵本『ゴリラとあかいぼうし』(福音館書店)は、ゴリラの言葉がゴリラ語に近づけた発音のカタカナで書いてあります。このため、読み聞かせをするときに、「どうやって発音したらいいの?」と困る方がたくさんいらっしゃるようになりました。そこで、なるべくゴリラに近い発音で読んだ声をCDに録音しました。さらに本の末尾に載せてある「ゴリラとあそぼう」という歌を声とバックミュージックだけのカラオケ調の2種類で録音してあります。このCDを作成費と郵送料、それにポポフへのカンパ代500円を含め1000円で販売します。ご希望の方はポポフ・グッズと同じ要領でご注文ください。折り返しCDを郵送させていただきます。

\*クワレは草原にいるウズラのような鳥

## ヘビとクワレの話

クワレは空を飛ぶことができませんが、ヘビはできませんでした。

あるとき、山火事がおこりました。火は山々を燃やし、草を焼き、燃え広がって行きました。動物たちも鳥たちも逃げ出し、鳥たちは飛んで遠くの山へ逃げて行きました。でもヘビは這い回っているうちに火がもうそこまで迫ってきました。その時ヘビは、飛び立ちようとしているクワレに気づいて、呼びとめました。

「すみません、すみませんクワレさん。お願いします。わたしを助けてくださいな」

「えっわたしに何をしろというのかい」とクワレは答えました。

「わたしは飛べないし、もう火が迫ってきていて焼かれてしまいます」

「わたしに何ができるというんだい」

「助けてくださいな」

「何もできないよ。私は飛んで逃げるところさ」

「いやいや、こっちへ来てわたしを運んでくださいな。その首に私を巻きつけて連れて行ってくれればいいじゃないですか」ヘビにそうたのまれて、クワレはどうしようかととても迷いました。そして

「わかったよ。首に巻いて運ぶから、さあどうぞ」と言いま



した。そこでヘビはクワレの首に巻きついて、クワレは飛び立ちました。火はもうそこまで迫って来ていました。クワレはプルプルと飛んで、遠くの山まで火から逃げて行きました。

そして安全なところまで来るとヘビにいました。

「へびさん、さあ降りてくださいな。ここは草がいっぱいでもう火が来る心配もないよ」ところがヘビは

「いやいやここがいいんだよ。わたしはこの首が好きなんだ。とっても好きなんだから、ここにいますよ」といいました。

「早く降りてくださいな。ヘビさんは重くて、もう首が痛いし疲れてしまったよ」

クワレが頼んでもヘビは

「いやいやここが好きなんだよ」と聞きません。そのうち「ああ腹がへってきたなあ。このままでは腹がへって死んでしまう。君を食おうかな」

という、ヘビはクワレを飲み込み始めました。頭からクワレを飲み込み、とうとう全部飲み込んでしまいました。

コンゴの昔ばなし

語り手：ジョン・カヘークワ

挿し絵、訳：ふしはら のじこ

## ポポフのホームページ

日本語:

<http://popof-japan.com/blog/>



ポポフの活動紹介、カフジ・ビエガ国立公園、ヒガシローランドゴリラ、ポポフ・グッズなどがカラー写真で紹介されている他、今までのニュースレターがすべて閲覧できます。ゴリラの歩く姿がとってもユニークですよ。

連絡先:

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
京都大学大学院理学研究科人類進化論研究室  
ポポフ日本支部

お願い: 上記のようなポポフの紹介とポポフ・グッズの展示・販売を各地で行いたく思っています。可能な場所と展示を引き受けてくださる方があれば、ご連絡下さい。

## ポポフの英語版ウェブサイト

ウェブサイト:

<http://www.polepolefoundation.org/>



ブログ:

<http://www.blog.polepolefoundation.org/>



ポポフの活動をより広く世界の人々に知ってもらうために、ポポフ・インターナショナル POPOF-I による英語版のウェブサイトがあります。ポポフのこれまでの歩みや現在の活動の様子、スタッフ、カフジ・ビエガ国立公園、ゴリラなどについて情報を発信しています。また、このウェブサイトと並行してブログも開設しました。こちらではポポフの活動だけでなく、国立公園周辺の村や町に住む人々の息遣いが聞こえてくるような、日常的な出来事が記事になっています。海外のお知り合いなどにご紹介いただければ幸いです。

